

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571300116		
法人名	医療法人 敬滋会		
事業所名	グループホーム 野洲すみれホーム		
所在地	滋賀県野洲市小篠原476番地1		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2571300116-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2571300116-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和4年6月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな事業所を目指し、利用者様・職員共に笑顔で過ごせる空間作りを念頭に置き職員一同日々業務に取り組んでいる。  
 特別養護老人ホーム等に入居申し込みされている利用者様にも、入居までの短い期間での当施設入居も受け入れている。  
 特に力を入れている点として日常生活の中で利用者様自身のリズムで生活できるようにサポートしていけるように心がけている。  
 また、退居された利用者様及びご家族様から当施設で最期を迎えたかったとお話を頂く事があり、令和4年3月より看取り介護をはじめ、日常生活から最期を迎えるまで関わりたいと考えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野洲すみれホームは、令和2年8月に開所した事業所である。「心休まる穏やかな暮らし」「生きがいを感じられる心豊かな日々」「笑顔あふれる幸せな生活」「思いやりたくさんの温かい空間」を理念に掲げ研修や話し合いを重ね努力している。コロナ禍の自粛で、地域との交流や、面会、外出等は思うように実践出来なかったが、人ごみをさけてのドライブやホーム内で楽しめるレクリエーションを利用者の意向を大切にしながら取り組んでいる。日々の生活では、居室の掃除や洗濯たみ、食後のかたづけ等、出来る力を生かした支援を心がけている。まだ開所から年数が浅く、模索中の課題も抱えているが、職員の気づきや意見を取り入れながらサービスの向上を目指す姿勢が伝わった。

seigenn

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げているが、実践していない職員と理念を理解し実践している職員がいる。	職員間で話し合っつくり上げた理念を根幹として日々の暮らしのケアの実践に努めているが、全職員が意識して実践出来ているか課題もあると管理者より聞き取る。	サービスの提供場面で理念がケアに反映出来ているか、具体的に振り返り、確認、共有されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流が図れていない。	コロナ収束後は、町内会の行事や地域の祭りに積極的に参加し交流を深めたいと考えている。少数ではあるが地域の方が介護相談に来られる等、少しずつ関わりが出来てきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域との交流が図れていない為、活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議については書面での開催とさせて頂いており、意見を聞く機会が無い。	コロナ禍の感染予防のため、書面で、事業所の現状報告を本人・家族、市役所関係者、町内代表に送付しているが双方向的な会議ではなく、情報の共有や意見が積み上がっていないと聞く。	書面でも具体的に課題提供して意見を伺うことはできないでしょうか検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	看取り介護の取り組みを行うにあたり、野洲市役所の担当者様と連絡を取っている。また、生活保護の受け入れに関する問合せを頂く事がある為、受け入れに関する相談をさせて頂いている。	市の担当者とは、常に連絡を取り合い協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束に関する研修を実施している。3か月に1回身体拘束防止に関する会議を行っている。	身体拘束をしないケアに関する内部研修をネットからの資料も参考にしながら行っている。落ち着いた様子を察した時は、庭先のプランタに植えた花の水やりを一緒にしたり、近隣を歩く支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待に関しても施設研修を行っており、虐待に関する会議も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設として学ぶ機会は作れているが制度を活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の内容を条項ごとに区切って質問等を聴きそれぞれについて答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご意見箱を設置しており、都度投函できる環境を作っている。 また、利用者様、家族様からのご要望に関しては実施可能な範囲で対応している。	来訪時や電話で意見や要望を聞いて、本人・家族等の意見を前向きに受け止め検討している。利用者の生活の様子を知りたいとの要望から、季節毎に機関紙を発行する予定をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアに意見を投函できる提案箱を設置しており、3か月に一回面談を実施し意見を聞く機会を設けている。	日々のミーティングや会議でも意見や提案は出しやすいと職員より聞き取った。管理者は、個別面談で意識的に職員の意見を聞き運営に反映させたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境については各職員に配慮しているが、人事評価や給与に関しては整備出来ているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加して頂いているが、内部研修の参加率が低く、機会の確保は出来ているもののすべての職員がそれを活かしているわけではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設として同業者との交流は出来ていないが、外部研修を通じて他事業所と交流できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの利用者様は不安が大きい為、まずは職員が関係を構築できるような関わりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現場としてはなかなか家族様と顔顔を合わせる機会がないが、管理者及びケアマネが家族様から要望を聞き、入所前カンファレンスで周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプラン作成の段階で要望を吸い上げどのような支援が必要で、どのような要望があるのかを確認しながら作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事は生活の中での役割として行って頂いている。また、これまでの生活について会話の中で知りえたこと(例えば地域での行事等)を他利用者様との会話の話題として提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に関して気になる事や、利用者様からの要望を適時伝えるようにしており、時には電話でお話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診以外の外出に関してはコロナ禍である為支援できていないがタブレット端末を使用した面会を行い画面越しではあるが面会をして頂いている。	コロナ禍で直接出会っての交流は、自粛しているが希望があれば、電話や手紙で連絡する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話できるように職員が間に入っている。 食席を考え、それぞれの利用者様にあった配置を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現場職員としては関わっていない。 退居された利用者様の家族様と顔を合わせる機会に、相談を聴いたり、入居されていた時の思いを施設運営に反映できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動を観察し、意向の把握に努めているが介助者本位になってしまっているところもある。	日々の暮らしの中での会話や、つぶやきを傾聴し把握に努め、申し送りノートに書き止め会議で検討している。「お寿司が食べたい」の一言が実現した例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を確認しているが、入居後の情報収集が不十分な為把握出来ていない事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや他の職員との話し合いの中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に現状の課題とケアの方法について話し合い、家族様からの要望を踏まえた上で介護計画を作成している。	申し送りノートやケア更新ノートを参考にして職員間でモニタリング・アセスメントを行っている。本人・家族には、予め、仮の介護計画を説明し、意見を聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアノートを作成しているが活用出来ていない。その結果、ケアの変更点を職員が把握できておらず、また口頭での伝達になってしまっている為、評価に至らない事が多々ある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の希望が多いが、コロナ禍の為実現出来ていない。施設として他事業所との連携等のサービスの柔軟性と多様化が必要と感じている為、今後の課題として取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しきれておらず、日々の生活の中で結び付けられていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医とは良好な関係が築けている反面、施設外のかかりつけ医とはあまり連携がとれていない。	事業所の嘱託医に通院や往診を受けて健康管理がされている。認知症専門医や眼科、皮膚科等は、家族等の送迎で希望の病院で受診されている。医療情報は、事業所の看護師が管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを看護師に報告し、専門的な観点からの意見を貰うように勤めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ早期に退院できるように医療機関との連携を取っている。また、情報交換により家族様と相談しながら受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退居された利用者様及び家族様より最後まで施設で過ごしたかったとお声を頂く事が多かったため、看取り介護に関する体制を整えており、随時終末期に関する研修を行っていく予定。	本人・家族の意向・医療関係者・市の担当者等の意見を聞きながら看取りに関する体制を整えている。重度化された場合のケアについても研修を行っていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急救護に関して、AEDの使い方の研修はしている。今後消防署に依頼してより専門的な応急救護に関する研修を定期的に行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、一時避難場所の把握を行っている。	消火器の使い方や避難訓練が定期的実施されている。備品等の準備については保管場所を考慮中である。	災害対策について運営推進会議等で地域との協力関係が築けないか継続して話われてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付けている職員が少ない。プライバシーにかかわる事に関しての声掛けの工夫が出来ていない。	開所から年数も浅く、加えてコロナ禍も影響し具体的な工夫は模索中である。しかし、内部研修を定期的で開催し、言葉遣いや身だしなみを取り上げ、職員の意識向上を図っている。管理者の意識は高く評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後に着替える服を選んでいただいたり、食事やレクリエーションなどの希望をお伺いし、出来る範囲で希望をかなえられるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務に追われ、職員本位で日々を過ごして頂いている事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容については一部の職員は気を付けているが、すべての職員が出来ているわけではない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたいものをお伺いし、食事レクに取り入れている。食器やお盆を拭いていただく事を利用者様の役割として提供している。	メニューは栄養士が決められており、食材は一括購入し、ホーム内の台所で調理して提供している。時には季節食提供のため、決まっているメニューをキャンセルし、季節食などへのメニュー変更をしており、柔軟な対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量及び食事量はその都度チェック表に記入し把握している。また、利用者様の食べやすい(飲みやすい)食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後実施出来ておらず、現状は夕食後のみ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る出来ないに関わらず、少しでも立位が取れる間はオムツは使わない方針で支援している。	排泄は自立の利用者が多く、リハビリハンフ対応が殆ど。中には就寝時は安眠の為、オムツを希望する利用者もあり希望対応をしている。チェック表を活用し、パターン把握している。利用者がトイレに行く素振りをされたら、すかさず誘導支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に排便コントロールの為、牛乳を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴曜日は基本的に固定してしまっているが、利用者様の体調や予定を考慮し入浴日を入れ替えている。 また、少しでも入浴を楽しんで頂くように入浴剤を使用している。	昨年の外部評価では「同性介助」を目標に掲げたが、シフトの都合で100%実践には至っていない。しかし、シフトが可能な日は同性介助を実践している。このような対応は評価できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその日の状態に応じて休息をとって頂いたり、安心して頂けるような声掛けを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を参考にし、服薬変更があった際には随時確認している。 施設として服薬ミスが非常に多い為、職員の意識改革が必要である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人が好まれる役割や楽しみを見出し実行して頂けるよう務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、あまり出来ていないが、車でドライブに行く(降りることなく景色を見る程度)等の支援は行っている。	コロナ感染予防を十分に考慮し、外出支援を行っている。ドライブは景色を堪能できる企画にしている。一時帰宅も少しだけある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出制限を掛けさせて頂いている為、金銭を所持している方はいらっしゃるが使ってもらえる機会が無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と相談の上、可能な限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温に気を配り、動線の確保等工夫している。フロアには季節ごとに利用者様と作成した作品を掲示している。	共用スペースは特に席は固定していない。しかし自然と利用者は同じ場所に座る。いずれの場合も制約や指示は行わず、利用者の意向を尊重している。居室同様消毒・換気は十分に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席だけでなく、時にはソファでくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様毎に居室を飾らせて頂いたり、当たり前前のもが当たり前前のように配慮している。	ぬいぐるみや家族写真等、利用者が落ち着くような設えがなされていた。コロナ対策の換気や消毒は職員が毎日行っている。又、掃除は利用者と一緒にっており、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等はわかりやすく明示し声掛けを行いながらこれまでの生活に近づけるように取り組んでいる。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	施設理念は掲げているもののそこに向かってどのように取り組んでいくかが不明瞭な部分がある。	職員一人一人が施設理念を理解し、よりよい施設を作り上げていく。	・会議及び研修を通して理念について考える機会をつくる。 ・利用者様のケアやアクティビティー、日常生活に関して職員同士話し合える体制の構築。	3ヶ月
2	34	・専門的な応急救護の知識、実践力が乏しい。 ・内部研修でAEDの使い方は学んだが、いざという時に使える自信が無い。	・緊急時に職員全員がAEDを使えるようにする。 ・救急搬送時に迅速な対応が出来る。 ・非常時の備蓄品をそろえる。	・出張研修を利用してより実践的な研修を行う。 ・救急搬送手順書を新規で作成する。 ・必要な情報を書面にまとめておく。 ・法人で話し合い、備蓄品をそろえる。	6ヶ月
3	36	・その場を収めようとする声掛けになってしまい、プライバシーを守る対応が出来ていない事が多い。	・利用者様それぞれが不快な思いをすることなく安心して過ごして頂く。	・内部研修で学んだことを実践する。 ・職員同士、ケアのあり方について都度話し合う。	1ヶ月
4	13	・職員研修の参加率が非常に低い。 ・研修内容が充実していない。	・内部研修参加率80%以上 ・参加したいと思ってもらえる研修を行う。	・研修の講師を担う職員は、事前に研修資料や進め方を管理者及びケアマネに相談し有意義な研修を行える取り組みをする。	3ヶ月
5	23	・利用者様の思いを把握していても、ゆとりある介護が出来ていない。 ・利用者様からの要望に対して応えられていない事が多い。	・利用者様一人一人が抱えている思いを把握し、日常生活の一部に組み込む。	・利用者様の思いを職員全体で共有し、出来る出来ないではなく、どうすれば実現できるのかを考え、必要ならば家族様等の協力をお願いし実現していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )